



梅雨に入っすぐ、私は体の弱さゆえ、対処すべきことが次々と出て来て、病院通いが続きました。現在は医療が進歩していますし、医師、看護師が患者サイドに立って対処してくださり、本当に嬉しいかぎりです。病院に委ねて、治療しながら日々を過ごし、元気の一步手前になり、夏になりました。熱中症の報道も始まりました。こちらにも用心が必要なようです。友人が丹精込めて育てている、夏の夜に一晩だけ咲く、満開の月下美人の美

しい写真を送ってくれました。元気になって、美しい、楽しい日々を楽しみたいと、その到来を楽しみにしていたところが、異常気象でしょうか、豪雨が日本各地を襲いました。死者、行方不明者の数が増えて来ています。あまりの数の多さに驚き、残念でなりません。河川の氾濫、山間部の土石流による、家屋の流出、田畑の冠水、道路の決壊など、大地もズタズタです。日本は「急峻な山地のわずかに開けた場所に人間が住んでいる」、「地震大国」と言われています。人間が安全に暮らせるように、用心すべきことをしなければ、大災害が繰り返されるのではないのでしょうか。



気が休まる暇がありませんが、こちらにまた一大事が発生！夫の手掌腱膜に繊維化した部分が出来て、固まり、指の伸展ができにくくなりました。デュピュイトラン拘縮と診断され、手術を受けます。主治医が丁寧に病気について、手術の方法、治療の効果とリスクなどについて説明

してくれました。広範囲に、ジグザグに切開して、ケロイド的になった繊維腫を切除します。手掌は神経が集中的にある場所なので、顕微鏡的なもので見て、細心の注意を払って行う手術とのことでした。今回は右手の薬指ですが、左手にもありました。手術の危険性、また、その後の合併症の可能性も話されました。手術によって改善されるとのことです、手術をお願いいたしました。

この病気の原因は不明とのことです。日本人には少なく、白人には割に多いとのことですが、糖尿病の人はなりやすいし、家族で罹患した人はいないか等、要因に当たるものについて、質問を受けました。傷がついたことから発症する可能性もあると聞きましたので、釣りに行って、釣り針を外す時、刺さることがあったことを思い出してお話しました。主治医も釣りに関心があって、すこし、釣りの話になりました。その時、夫の癖、目いっぱい遠くへ飛ばす、遠投に話が及んだ時、竿を握った手の形を見て、「それです！」と主治医が言われました。竿を握った手掌の力が漲っている部分が、繊維化していたのです。楽しみの釣りも、何事も、カー杯やらねば気がすまない夫の癖のため、無理な部分が出てきたのでしょうか。主治医は手が専門の整形外科医とのこと、非常な熱意と誠意をもって手術に当たりますとお気持ちを伝えてくれました。本当に感謝の気持ちで一杯です。かなりデリケートな手術なので、全身麻酔で行うとのことです。



長年使いまわしてきた体はそれなりに老朽化してきますし、無理をしたり、不用心であれば、それなりの結果がついて回るとは思いました。でもこの苦境に寄り添って、助けてくれる専門家が与えられたことは本当に有難いと感謝の気持ちで一杯です。思いがけず、今朝、「咲いたら届けようと思って、待っていたのよ」と咲いたばかりの赤々としたロベリア・クイーンヴィクトリア（紅沢桔梗）と鬼百合を近所の友人が持ってきてくれました。夏の輝きと風を感じて、嬉しくなりました。希望を持って、祈りつつ、忍耐しながら、しばらくの時を過ごしましょう。